JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告（AHA2018/ESC2018）

国際学会を経験して

久留米大学循環器病研究所　山本真衣（やまもとまい）

第4回Travel Award for Women Cardiologists（JCS/TAWC）にお選びいただき，まことにありがとうございます．2018年8月25日～29日にミュンヘンで開催されたESC Congress 2018に参加致しましたのでご報告致します．

今回のESCは，私が循環器領域での研究を開始してはじめての学会発表（**図1**）で，心筋梗塞後の組織修復におけるInterleukin-22（IL-22）の作用についてポスター発表を行った．IL-22欠損マウスでは心筋梗塞作製後の心破裂発症率が8割を超え，野生型マウスに比べて有意に高いという結果を得ており，心臓の組織修復過程にIL-22が重要な働きを持っている可能性について，いろんな視点からディスカッションをしたいと考えていた．しかし，いざポスター発表となると，どのように話を進めていったらいいのか，それ以前にどうしたら興味を持ってもらえるのかがわからずに，通りかかった人に声をかけ，発表させてもらうだけで精いっぱいだった（**図2**）．他の研究者の発表を見て，心筋梗塞や創傷治癒に関する研究を知ろうと，セッションのカテゴリーや発表のキーワードを頼りに会場をぐるぐる廻ったが，発表を聞いているうちに，自分が何を知りたかったのかがさっぱりわからなくなっていった．相手の発表内容はわかったような気になっても，自分の持っている知識とのつながりをつくれず，情報のなかで迷子になったような気分だった．

自分の研究についてすら，どんな視点に立った場合のどんなよさなのか説明できないということに気づいたときは，途方に暮れた．しかし循環器領域初心者として学会を振り返ってみると，これまでは自分の研究の内側にしか目を向けていなかったので，研究が目指すゴールや周辺知識，どんな視点に立っているかを共有する方法がわからなかったのだろうと思う．私は医師やコメディカルではないので，疾患に対して臨床現場で問題を

図1　学会会場

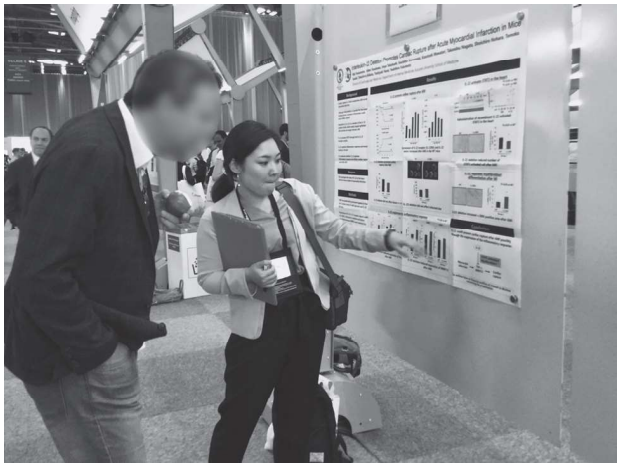

図2　発表の様子

みたり，みつけたりすることを感覚ではできないし，臨床現場で共有されている視点があるのだとしたら，それを自然に共有することは難しい．実験を主体に医学研究をしている私が，循環器領域の発展にどんな価値をもたらせるのか，これからもずっと考えていくだろう．

反省点ばかりだったが，気づきが多い学会参加になった．発表を後押ししてくださった研究所の皆様，会場で快く私の発表を聞いて質問をしてくださった先生方に感謝いたします．また，循環器領域の研究を始めて早い段階でESCのような大きな学会で発表する機会をいただけたことに感謝いたします．今後も循環器領域の発展に寄与するように精進していきたいです．

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

＊　＊　＊